

6:29 葛川辻(1,138m)発(0:40/0:56⇒地藏岳)

朝 4 時頃起床した。羽毛服を着て羽毛のシュラフにくるまって寝たが、テント泊は朝方や肌寒く感じた。葛川辻は持経ノ宿より 100m ほど標高は高いが…。明るくなり始めると、テント撤収開始。フライシートは濡れていないようだ。ペグに着いた土を払うのに、小型のスコップは役に立った。計画より 30 分早く出発。

6:52 槍ヶ岳(やりがたけ、第 17 靡)

槍ヶ岳を過ぎると、鎖場が多くなり、徐々に急峻な岩場の連続となる。荷が重いと鎖場の連続は慎重になる。一番急峻な岩場では、追悼の看板が掛けられていた。新宮山彦グループのメンバーのようだ。このルートを再興する時の苦労は、計り知れない物があったのだろう。葛川辻から地藏岳まで標高差は 100m なのだが 1 時間 20 分近くを費やした。コースタイムは 40 分だ。慎重に登ったので、50 分以上の時間を使った。



7:13 地藏岳登り鎖場上方



7:13 地藏岳登り鎖場下方



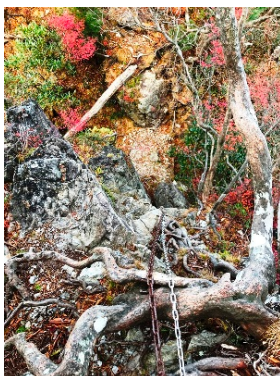
7:30 地藏岳

7:25 地藏岳(1,250m)着(1:10/1:19⇒香精山) 7:46 発

地藏岳山頂は林の中だが、地藏の小さな像が祀られていた。少し離れた岩場に少し大きな地藏が祀られているようで、案内表示があったが、行かず。交信可能だったので、LINE 報告。



7:53 地藏岳より展望_パノラマ



7:52 地藏岳下り鎖場下方



8:04 地藏岳参道標識



8:11 不動明王石碑

8:25 四阿之宿(しあのしゆく、第 16 靡) 東屋岳は巻道通過で、山頂通過の道は不明。



8:25 四阿之宿標識



8:33 拌み返し



8:36 玉置山・地藏岳標識

8:33 拌み返し(おがみがえし、第14 靡)

コースがなだらかになってきたのと、脚の負担を軽くするため、ダブルストックとした。

8:44 檜之宿跡



8:44 檜之宿跡標識



8:52 稜線標識



8:59 高圧鉄塔交差点

9:05 香精山着(こうしょうざん、第13 靡)(0:35/0:45⇒塔ノ谷峠) 9:30 発



9:07 香精山



10:02 玉置神社 7.7km 標識



10:11 貝吹之野



10:11 貝吹之野標識

10:15 塔ノ谷峠着(1:10/1:15⇒蜘蛛ノ口) 10:28 発



10:19 塔ノ谷峠



10:58 玉置神社 6.4km 標識



11:11 21 世紀の森分岐

11:18 古屋宿跡(ふるやのしゆく、第 12 靡)



11:18 古屋宿跡



11:32 千眺之森標識

11:32 如意宝珠岳(如意珠岳によいじゆがだけ、第 11 靡)着 11:47 発

12:01 蜘蛛ノ口(1:35/1:20⇒花折塚)



12:01 蜘蛛の口



12:01 蜘蛛の口アップ



12:13 稚児之森

12:13 稚児之森(ピーク 703)

12:16 林道出合着(玉置神社 4.6km 標識)

舗装された車道に出た。舗装道上を、ストックを突きながら先を急ぐ。時折自動車が通って行くが、自動車が通り過ぎると静けさが戻ってくる。車道脇に大きくりっぱな世界遺産・大峰奥駈道の解説板がある。コース地図(吉野から熊野本宮大社の全コース図及び十津川村に関わる奥駈道)と、全コース高低図、地理的概要、歴史的概要が記されている。文章は英語併記。

これ以降玉置神社まで、頻繁に舗装道と交差しながら奥駈道は続いている。

地理的概要

大峯の連山は、紀伊半島の中央部北から南へ走り、近畿の屋根・大和アルプスなどと称される。北から大天井岳・山上ヶ岳・大普賢岳・弥山・八経ヶ岳・孔雀岳・釈迦ヶ岳・大日岳など標高約1200~1900mの急峻な山岳が連なっている。大峯奥駈道は、この大峯山脈の主稜線を通り、吉野と熊野の二大霊地を結ぶ170kmにも及ぶ山岳道で、修験道の開祖役行者によって開かれた最高にして最大の修験根本道場が大峯山脈であり、ここを中心にわが国固有の信仰である修験道は1300年の歴史と文化を脈々と現代に伝えている。奥駈道は、一般の通行路ではなく、修験者の厳しい峰入り修行のための信仰の道であるために、修験教団や民間の講並びに地元の人々などによって古代からの山岳道として維持保存されてきたものと推定される。

奥駈道には、大峯七十五廨と呼ばれる霊地や行場が遺跡として各所に残り、また、霊地や行場の祠や諸仏尊像が良好な状態で保存・管理されている。なお、大峯山系を中心とした山岳地帯は、昭和7年(1932)に指定された吉野熊野国立公園に含まれ、雄大な自然を求めて訪れる登山者も多い。

歴史的概要

修験道の開祖とされる役小角。尊称して役行者と呼ばれ、飛鳥時代後期(634~701)に葛城山麓に住した山岳修行者である。その役行者が修験道の根本道場と定めたのが大峯であり、役行者によって開かれたのが大峯奥駈道である。奈良時代(710~784)には、吉野の比蘇寺(吉野寺)では、自然智宗とよばれる山岳抖擻を旨とする山岳修行が形成されていた。平安時代(794~1185)初頭には熊野から金峯山にいたる大峯の山中を抖擻する修行が盛んになり、峯中には数多くの廨と称される行場を中心に大峯修行が行われるようになった。

廨とは役行者の法力に草木もなびいたという意味を持つ山中の行場などを指し、修験道に関わる神仏の出現の地、あるいは居所とされている。大峯修行の成立時、山中には100~120の行場や霊地が定められていたが、その後七十五廨としてまとめられた。やがて、順峰(熊野から吉野)による修行が少なくなり、多くは吉野から熊野に入るコース(逆峰)を採るようになった。いわゆる山上詣では庶民の間にまで広がり一般化した。そこで、より厳しい大峯修行は山上ヶ岳より更に奥に入って修行するところから「奥通り」と称され、今日では大峯奥駈修行と呼ばれるようになった。



12:16 玉置神社 4.6km 標識



12:20 玉置神社 4.4km 標識・林道出合



12:20 大峯奥掛道解説板

13:07 林道出合着 13:14 発



12:30 玉置神社 4.3km 標識・林道出合



13:04 林道出合



13:37 玉置神社 2.5km 標識

13:43 花折塚着 (0:55/1:00⇒玉置山) 14:01 発



13:43 花折塚説明板



13:43 花折塚

花折塚(説明文概要)
元弘元年、大塔の宮が玉置山通過の際、玉置庄司が道を塞いだので、お供の片岡八郎が戦って戦死した。この八郎の屍はこの地に葬られたが、道行人が花を添えたので、花折塚と呼ばれた。

14:29 世界遺産記念碑着 14:33 発

道路脇の広場に大きな石の「世界遺産記念碑」が設置されている。またこの広場から見える山並みが「十津川の森北又」で山定板もある。山の合間に「紀和町」の文字がある。私の故郷だ。こんなに近いのだろうか？

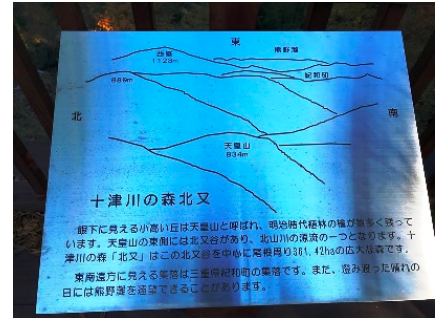
地図で確認すると、北山川の瀬八丁を挟んだ地域は、紀和町木津呂だ。5km ほどの距離だった。



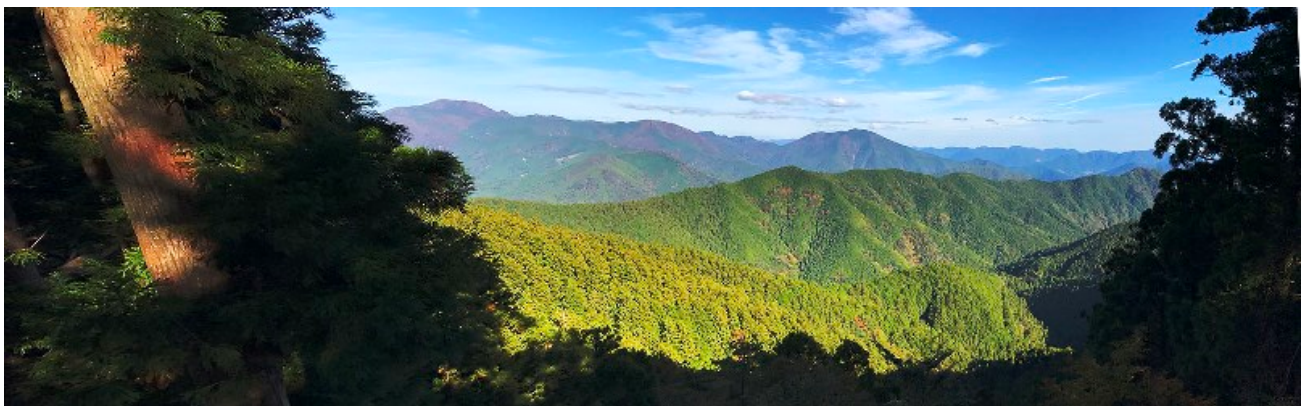
14:29 玉置山登山口



14:29 世界遺産記念碑



14:30 十津川の森北又



14:30 世界遺産記念碑からの展望_パノラマ



14:36 かつえ坂



14:55 玉置山 200m 標識

15:01 玉置山着(たまきさん、第10摩)15:30 発

玉置山頂には誰も居なかった。山頂は交信可能で、初めてポケモン go のジムに遭遇。ジムにポケモンを配置など少しポケモンでリラックスタイム。自撮りタイマーで撮影を終えた時、普通衣装の女性が二人、疲れたと声をあげながら登ってきた。和歌山県の御坊市から来たと言うので、私もそこに住んでいたことがあると返すと、母校の話に繋がりを、私の二年先輩の田中勇次をお互いに知っていることが分かった。しかも、彼女の娘も母校に入り、同じ学校に入学した先輩の息子さんと結婚したとのことだった。奇遇だ。名前を交換し、写真を取り合った。



15:06 玉置山・自撮り



15:08 玉置山



15:20 玉置山(YKさんと)

その後、静岡から来た関西百名山に登っている夫婦二人連れと、大阪からの若い男女三人組が登ってきた。今日は11月1日である。1日と15日は玉置神社の特異日で、ご利益が多いとのこと。玉置山頂もパワースポットとのことだった。関西百名山組は、明日「五大尊岳」に向かうとのこと。明日の縦走路にある山なので、会う可能性がある。玉置神社と駐車場は、方向が逆でかなり離れているとのことなので、先に駐車場に行きテントを張ることにする。山道を20分ほど歩いて駐車場に到着。数台駐車中の車があった。

16:01 玉置神社駐車場着 16:45 発

舗装された無料駐車場は、40台ほど駐車可能で、手前の谷川隅に売店、奥の谷川隅には、トイレが設置されている。売店は閉店の準備をしていた。外の売り場に置かれていた「めはりずし」や「さんま寿し」は販売可能とのこと、各1パック購入した。駐車場にテントを張る旨伝え、風があるので、ペグ使用なら少し離れた土の広場がありそこが最適とのこと。また水場を聞くと、飲み水は入手できないので、2Lのペットボトルに入った水を無料で提供してくれた。大変ありがたかった。また自動販売機があったので、お茶とコーヒーを購入。2~3分先のテント張適地に行き早速テント張。地面は平だったが、少々固く12本ペグを打つのに苦労した。設営後神社に向かう。水平道を15分ほど歩いた後、階段を下る。足が不自由と思われる年配の男性が杖を

突きながらゆっくり登って来た。駐車場まで歩くそうだ。階段を数分下ると神社が見え、若い男性が登ってきた。社務所の人で、帰宅するそうだ。駐車場でテント泊予定の者だが、神社を見ても良いかと聞くと境内は可能との答えて、水場を教えてください、リンゴとかお菓子などをわざわざ社務所に戻って持ってきてくれた。なぜか親切にしてくれた。

一週間ほど前に社務所に宿泊可能かとの電話での問い合わせに対応してくれた人に声が似ていた。その人は Fax での申請を確認してくれ、本来二週間前の申請必要なのだが、上司に確認してくれた上、申し訳なさそうに回答してくれた。

17:10 頃 玉置神社:

少し境内を見たが、薄暗くなっていたので、良く見えなかった。もと来た道をヘッドランプを点灯して引き返す。尚、社務所は、神仏混淆時代はお寺だったようで、神仏分離後は社務所・台所および参籠所(さんろうじょ)として使用されているとのこと。宿泊する場合は、ここだったのだ。また参籠所は地階にあるようだ。

17:45 頃 玉置神社駐車場着

自動販売機で購入したお茶やコーヒーをガスコンロで温め、売店で買った「さんま寿司」のパックを平らげる。食後、スマホに充電しながら、LINE 交信。宿泊地で初めて更新可能な場所だった。8 時前に就寝。

玉置神社概要(by 玉置神社 HP: http://www.tamakijinja.or.jp/pre_sh/index.html)

玉置神社は大峰山脈の南端に位置する標高 1,076 m の玉置山の山頂近くに鎮座し神武天皇御東征の途上として伝承されています。

創立は紀元前三十七年第十代崇神天皇の御宇に王城火防鎮護と悪魔退散のため早玉神を奉祀したことに始まると伝えられています。

古くより熊野から吉野に至る熊野・大峰修験の行場の一つとされ、平安時代には神仏混淆となり玉置三所権現または熊野三山の奥院と称せられ霊場として栄えました。

江戸時代には別当寺高牟婁院が置かれていました。その後、慶応四年の神仏分離により神仏混淆を廃し以後玉置三所大神、更に玉置神社となり現在に至っています。

境内には樹齢三千年と云われる神代杉を始め天然記念物に指定されている杉の巨樹が叢生し、平成十六年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。